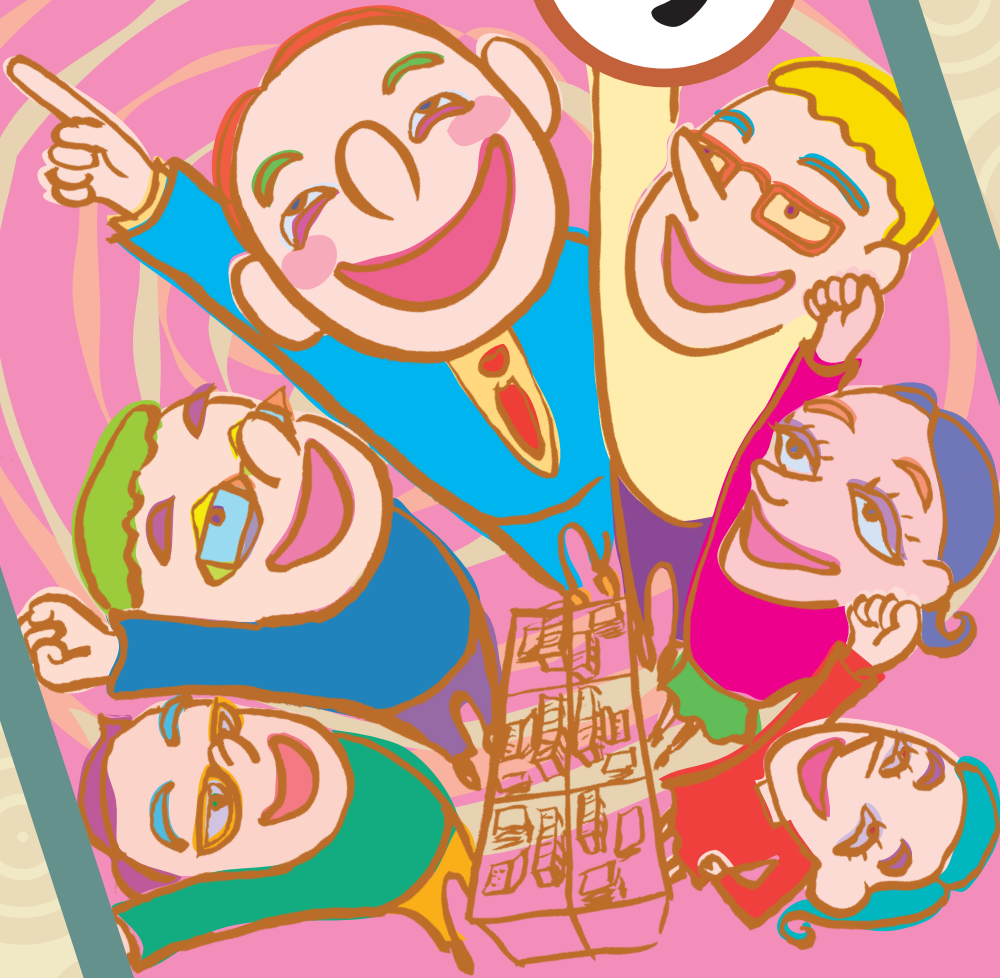


回文の  
あたるた

り  
たいあま  
たあのだ  
まあたり

り

first message from ISOS



Fight  
on a mission

minami

り

## リタイア またあの頭 空いたり

10年前、日本の審査登録制度がスタートした頃に審査登録機関や受審企業で活躍しておられた方々の多くが、今ではリタイアされている。まだまだ現役で活動できるはずなのだが、席が空くのを待っている人々が控えているので仕方がないようだ。当初と今とでは、ISO関係者の顔ぶれは随分異なっている。アイソスは創刊して5年半。編集部員は創刊以来変わらないし、その使命も変わっていない。

アイソスには明確な使命がある。それは民間による第三者審査登録制度を支援するということ。この制度に対して、アイソスは「与党」だと思っている。誌面を通じて制度を報道するという面で執行責任があると感じている。我々は、認定機関や審査登録機関、あるいは受審組織のように、この制度に直接関わる者ではない。だから本来、制度執行に関わる権限も責任も持っていないが、勝手に責任だけを感じ、鋭意編集作業を続けている。では、「野党」とはどのような人々なのか。役所主導型の制度を謳う人々を、アイソスは「野党」と呼んでいる。

アイソスは「体制側」の雑誌である。体制側の人間が持つ意識の典型が「今の治世は永遠に続く」である。アイソスもそう考えている。民間による第三者審査登録制度は、市民社会における適合性評価制度の最終形態であり、歴史の逆戻りはないと頑迷に思い込んでいる。ゆえに、最近のISO13485(医療機器)やISO22000(食品安全)に伴う政府認証の動きに便乗し、「役所主導の制度＝安全、民間主導の制度＝いいかげん」といったレッテルを張ろうとする人々を、アイソスは「反動」と呼んでいる。

アイソスは今後も、ただひたすら自らの使命を果たすべく活動を続けるのみ、である。